

地震が発生すると、気象庁から【〇〇地方で地震が発生しました、震度〇〇を観測したのは、〇〇市、〇〇町です】と発表されます。**【震度】**は、地震による**各地のゆれの強さを10段階**(震度0、1、2、3、4、5弱、5強、6弱、6強、7)で表したものです。

かつては、人が感じたゆれの強さや地震後の周囲の建物のこわれ方などから**【震度】**を決定していましたが、人によって感じ方が異なったり、震度を決定するのに時間がかかったりします。

このため、平成8年(1996年)4月よりゆれの強さが測れる**震度計(加速度計)を用いた自動観測**となりました。

気象庁が発表する震度は、気象庁、地方公共団体、(国研)防災科学技術研究所が、**全国4,000以上の場所**に設置した震度計で観測したものです。



従来の**震度計(加速度計)**は、とても高価でしたが、技術の進歩により、**安価で小さ**くなりました。この結果、様々なところで地震のようなゆれを測ることが可能になり、例えばスマートフォンにもゆれを測る機械が取り入れられ、万歩計のアプリケーションなどに活用されています。

以前は「**地震だ！火を消せ**」と言われました。これは、大正12年(1923年)の関東地震(関東大震災)で大火災が発生したことから生まれた教訓です。

しかし、**地震の強いゆれのさなか**加熱中のIHヒータやガスコンロを止めようとして**調理器具に近づく**と、ヤカンやナベがひっくり返ってしまい高熱のお湯や油を浴びて**やけどをしてしまう危険**があります。



このため、みなさんの家の台所にある**IHヒータやガスコンロのガスメーターにもゆれを測る機械が入**っていて、地震のゆれを感知(震度5弱程度以上)するとIHヒータやガスコンロは、**自動的に止ま**ります。

**料理中に地震を感じても、IHヒータやガスコンロを人の手で止める必要はありません。**調理器具からはなれて安全を確保しましょう。

**国総研**では、最新の観測機器を用いていろいろな場所で地震を測り、**地震に強い橋や道路をつくる研究**をしています。